審議会会議録

審議会等の名称	令和4年度 第1回老人福祉計画策定・推進委員会
開催日時	令和5年3月29日(水曜日) 午後1時30分から午後3時00分
開催場所	瑞穂市総合センター 5階 第4会議室
議題	瑞穂市高齢者生き生きプラン(老人福祉計画)の進捗状況について
出席委員 欠席委員	出席委員：所 俊彦、新井美佐子、新井正信、玉城栄之助、 井桁 泉、山本訓男、中村廣隆、松井千賀子、牛嶋恭子、 池田美加、吉田記代美、豊田隆夫、高橋秀人 欠席委員：坂之上尚久、小森秀夫
公開・非公開の 区分 (非公開理由)	公 開
傍聴人数	0人
審議の概要	<p>開会</p> <p>委員15名中12名出席(1名遅刻)で過半数以上となり会議は成立します。</p> <p>所会長あいさつ</p> <p>コロナウイルスの猛威により外出もままならず、進捗できなかったこともあったかと思うが、この3年間の動向を見極めた。</p> <p>議事「瑞穂市高齢者生き生きプラン(老人福祉計画)の進捗状況について」</p> <p>計画内容と進捗状況について事務局より説明。</p> <p>【質疑等】</p> <p>〈ボランティアについて〉</p> <p>○豊田委員 生活支援ボランティア等、ボランティアの高齢</p>

化により活動が難しい。ボランティアの育成や募集はどのようにしているか。解決策は。

○牛嶋委員 社会福祉協議会地域福祉課窓口でボランティア団体や活動内容の紹介をしている。育成、掘り起し方法については確認する。

○所会長 積極的なボランティア募集は広報に掲載などしていないか。

●事務局 社協の広報あいあいに掲載しています。

○豊田委員 ボランティアの担い手が少ない状況の中で、高齢者が高齢者を支えていく体制を作っていくべき。ボランティア側の高齢者の健康寿命も延びるのではないか。瑞穂市独自の取り組みを考えてほしい。

○新井（正）委員 老人クラブの活動もボランティア。地域の老人クラブの活動のなかで公園や神社、お寺の清掃も行っている。またふれあいサロンや認知症カフェも高齢者が運営している状況。お手伝いしたいかたは地域のサロンやカフェへ参加してもらいたい。

○新井（美）委員 ボランティア活動を長く続けてもらうために、ガソリン代程度を補助する有償ボランティアの仕組みを検討してもらいたい。

〈防火訪問について〉

○豊田委員 どれほどの頻度で訪問しているか。また、消火器の設置についての指導や、市の補助はないか。

●事務局 順番に毎年地区を限定して、独居高齢者世帯と高齢者のみの世帯を消防署員と民生委員が訪問しています。訪問時には啓発物品を配布しますが、住宅用の火災警報器の設置など消防署ならではの話もしています。家庭への消火器設置の補助は行っていません。

○豊田委員 要は高齢者の見守り活動なので、民生委員だけでなく社協の福祉協力員も活用する方法を考えていくべき。

〈高齢者タクシー助成事業について〉

○豊田委員 タクシーチケットを1回に2枚まで利用可能となったのはいつからか。

●事務局 令和4年10月から変更しました。

○松井委員 条件緩和の内容は。

●事務局 今まで1回の乗車に1枚しか利用できなかったものが、2枚まで利用可能になったことと、夫婦のどちらかが免許証を所持していると助成されなかったものが、実際に運転しないのであれば助成することとしました。

〈ボランティアセンターについて〉

○吉田委員 ボランティアセンターはどこにあるか。

○牛嶋委員 瑞穂市社会福祉協議会地域福祉課に設置している。ボランティアコーディネーターを1名配置し、ボランティアに関わることを全般を行っている。社協の広報あいまいにボランティアだよりという記事を掲載していて、ボランティアセンターおよびボランティアの活動紹介をしている。

【意見等】

○玉城委員 コロナの影響で健康教室や配食事業、施設の利用等、積極的な参加をPRしづらい状況だった。コロナ以前につながっていたボランティアのかた、利用者の家族、教室の参加者などとの関係をどう再構築していったらいいか考えながら、地域住民と一緒に何かを始めたい。

○池田委員 コロナ禍でできなかった事業もある。今まで中止していたものを再開し、高齢者の見守りも含め地域包括支援センターとして積極的に活動していきたい。

○山本委員 シルバー人材センターも会員が減少している。コロナ禍で事業を縮小しているものをいかに回復するかが今の課題。シルバー人材センターは無償ではないので、電球の取り換えやゴミ出しのお手伝いなどは気軽に頼めるボランティアが増えるとよい。

○井桁委員 要介護の高齢者のお宅を訪問しているが、タクシーチケット助成は口コミで調べてみなさん申請されているようだ。資料の申請数増加という結果からも、高齢者は広報を見たり意見交換をして情報を得ていると実感した。ボランティア不足と聞いたが、見守りをする地域のかたから情報が得られれば、在宅での生活が続いていく大きな一歩になるので、支援者が多くなるようお願いしたい。

○新井（美）委員 ふれあいきいきサロンの高齢ボランティアが報告書の作成をしているが、負担となっているのが問題。報告書を簡素化すればボランティアもやる気が起こるし自治会の協力も得られるのではないか。

○中村委員 ボランティアの活動、地区ごとのニーズの把握、人材育成は上位計画である地域福祉計画で推進している。生活支援コーディネーターの活動は地区に応じたニーズの把握。地区社協の立ち上げは小地域でその地区に応じたニーズを検討し合う場。そのニーズをボランティアにつないでいく作業がどうなっているかを示すとわかりやすい。地域福祉計画と本計画の連動をどうしていくかを次期計画策定時に

	<p>検討するとよりよい計画になるのではないか。</p> <p>もとす広域連合が3年に1回のニーズ調査をしているが、コロナ前後での社会参加割合の変化や困りごとの増加など実態を明らかにして、それに合ったサービスを提供していく体制を整えていけば、健康に生きていける瑞穂市になっていくと思う。</p> <p>閉会</p>
<p>事務局 (担当課)</p>	<p>瑞穂市 健康福祉部 地域福祉高齢課 (総合センター内)</p> <p>T E L 0 5 8 - 3 2 7 - 4 1 2 6</p> <p>F A X 0 5 8 - 3 2 7 - 4 1 4 3</p> <p>e - m a i l chiikifukusi@city.mizuho.lg.jp</p>